

2020—2025

八戸市美術館 学校連携事業 活動報告



目次

はじめに	P01
------	-----

学校連携プロジェクトチーム

1 学校連携プロジェクトチーム	P02
2 全体会議	P03
3 大きな絵プロジェクト	P04
4 同じテーマで作品作りプロジェクト	P05
5 美術館新聞部プロジェクト	P06
6 小中高合同鑑賞会	P08
7 みんなでじっくり鑑賞ナビ	P09

アーティストと子どもをつなぐ

1 合唱録音プロジェクト	P10
2 《タノニマス》小学校出張ワークショップ	P11
3 PUTI PUTI LAND	P12
4 コピトラとつくる\ココハドコダ!?／パラレルシティ	P13

学校と美術館

1 出張授業・公開授業「思い出を美術館に…」	P14
2 出張授業「風のなかを飛ぶ種子 青森の教育版画」	P15
3 図画工作科教育研究会 研究授業	P16
4 朝鑑賞のための対話鑑賞研修	P17
5 見学・職場体験	P18
6 図工・美術・文化展	P19

おわりに	P20
------	-----

はじめに

本冊子は、2020年から2025年に八戸市美術館で実施された、小学校・中学校・高等学校との学校連携事業の活動を紹介するものです。

八戸市美術館は、2021年11月に全面建て替えをして再開館しました。「種を蒔き、人を育み、100年後の八戸を創造する美術館～出会いと学びのアートファーム～」をビジョンに掲げ、アートを通じた出会いが人を育み、人の成長がまちを創ることをコンセプトにしています。

従来の「もの」としての美術品展示が中心だった美術館機能に加えて、「ひと」が活動する空間を大きく確保することで、「もの」や「こと」を生み出す新しいかたちの美術館として、新たな文化創造と八戸市全体の活性化を図ることを目指しています。

そこで、アートを通じた学びを重視する美術館として、児童・生徒の個々の価値観や美意識を醸成して、一人ひとりがアートを通して自ら答えをつくり出していく力を育むことを目指すために、再開館前の2020年から小学校・中学校・高等学校などの教育機関との連携強化を計画し、様々な事業を実施してきました。

また、本冊子には掲載できませんでしたが、大学・高等専門学校とも連携しており、特徴的な活動を行っている市内の大学・高等専門学校と美術館が持つ専門性を、経済や福祉、まちづくりなど、他業種や他分野に融合させる事業を行っています。

本冊子が、美術館が身近になり、学校と美術館の連携や美術館活用が広がるきっかけになれば幸いです。

1 学校連携プロジェクトチーム



チームメンバー |

2020年度	小学校7名、中学校5名、高等学校2名、専門家1名、学芸員2名	計17名
2021年度	小学校7名、中学校5名、高等学校2名、専門家1名、学芸員2名	計17名
2022年度	小学校9名、中学校6名、高等学校3名、専門家1名、学芸員2名	計21名
2023年度	小学校9名、中学校5名、高等学校3名、専門家1名、学芸員2名、学校連携コーディネーター1名	計21名
2024年度	小学校7名、中学校5名、高等学校3名、専門家1名、学芸員2名、学校連携コーディネーター1名	計19名

内容 |

学校連携プロジェクトチーム始動

開館前の2020年9月に、小学校・中学校・高等学校などの教育機関との連携強化を図るため、八戸市教育委員会や市内小中学校の図画工作・美術教育研究会、県高等学校の美術工芸部会の協力を得て、「学校連携プロジェクトチーム」を結成しました。



メンバー

このチームは、小学校・中学校・高等学校の教員、美術教育の専門家、美術館の学芸員で構成されており、2023年からは新たに美術館学校連携コーディネーターが加わりました。自ら希望して参加した先生がメンバーとして活動しています。初対面のメンバー同士が打ち解けるため、結成時には「自己紹介シート」を作成して配布しました。



目的

校種や学校・美術館の立場を越えて連携することで、学校現場で抱える課題の解決や、児童・生徒たちがアートを通して自ら答えをつくり出していく力を引き出すことを目的としています。そのために、プロジェクトや作品鑑賞など様々な企画を行っています。



2 全体会議



場所 |

八戸市美術館

内容 |

情報交換の場

学校連携プロジェクトチームでは、全体会議を年に3回程度開催しており、プロジェクト実施報告や展覧会などの情報共有、今後の活動について話し合っています。また、メンバー同士の近況報告や情報交換の場にもなっています。

事例紹介や研修

専門家の三澤一実教授やゲストが、全国の美術教育や授業実践の事例紹介を行っています。分身ロボット「オリヒメ」や、グラフィックレコーディングを導入した会議も実施しました。メンバーの希望により、収蔵作品を活用した対話鑑賞研修も開催しています。

アイデアが生まれる

メンバーのアイデアからいくつかのプロジェクトが生まれました。会議以外にチームで集まり、素材や実施方法を相談しながら企画を進めています。2023年には、メンバーが自由に活動できる場所「学校連携ラボ」を館内に設け、今後の活用方法を検討しています。



3 大きな絵プロジェクト

実施日
2021年8月3日(火)



参加校 |

八戸市立第一中学校、青森県立八戸東高等学校

八戸市立城北小学校、八戸市立西白山台小学校、八戸市立白山台中学校、八戸市立東中学校 計 195 名

内容 |

ジャイアントルームを活かして

「大きな絵を美術館のジャイアントルームに飾ってみたい」というアイデアが生まれ、このプロジェクトが実現しました。チームで描くテーマを話し合い、試し塗りをして素材を考えました。テーマは「大きな木」、素材はメッシュシートと絵の具に決めました。



中学生と高校生が大きな木を描く

制作当日は、八戸東高校と第一中学校の美術部員が美術館に集合しました。高校生がマスキングテープで木の形を決め、葉っぱや美術館のシンボルマークを描きました。色塗りは高校生が左半分を、中学生が右半分を担当しました。



「八戸の実」がなる大きな木の完成

色塗り後は、事前に小中学生が描いた丸い「八戸の実」を糸で縫い付けました。最後にシートを繋ぎ合わせ、上部のワイヤーから吊り下げ、大きな絵が完成しました。この絵は美術館のプレイベントなどでお披露目しました。



場所 |

八戸市美術館ジャイアントルーム

チームメンバー |

蛭田 美奈子、清野 恵、原子 こづえ、
高谷 久美子、中奥 尚子、秋元 晶子、
大前 彩香、高森 大輔、篠原 英里、田村 由衣

先生の声

蛭田 美奈子（中学校教諭）

真っ白で天井が高い新美術館に心が躍りました。青森県立美術館の《アレコ》のような「大きな絵」を飾りたい。参加者が生涯に残る活動を……。

チームが何度も連絡を取り合い議論し、三澤先生の協力を得て実現。小中高生の感性が集合した作品が吊られていくと、透けた素材が想像以上に圧巻の美しさで、魂が震えました。参加した生徒たちの表情も充足感でいっぱいでした。

4 同じテーマで作品作りプロジェクト

実施日
2021年8月10日(火)



参加校 |

八戸市立多賀小学校、八戸市立豊崎小学校、八戸市立三条中学校、
八戸市立第二中学校、八戸市立東中学校、青森県立八戸北高等学校 計70名

内容 |

校種によってどのような違いがあるか？

校種の異なる教員が集まっている長所を生かし、小中高生が、同じテーマと素材で作品をつくったら、どのような違いが見られるのか、一緒に鑑賞をしたらお互いにどのように感じるのかというプロジェクトを実践しました。テーマは「こころ」、主な素材は新聞紙に決めました。



「こころ」をテーマに制作

会場には新聞紙以外の様々な素材を置いたコーナーを設置しました。楽しい思い出や悔しい思い出、未来の自分を表現するなど様々な作品が完成しました。小学生が中高生のテーブルに行き、制作の様子を眺めたり、質問したりする場面も見られました。



小中高生混合グループによる鑑賞会

完成後は小中高生混合グループに分かれ、鑑賞会を行いました。鑑賞のファシリテーションは高校生が担当し、1人ずつ発表して、それに対して感想を述べました。最後にグループの代表者が鑑賞内容や感想を全体で発表しました。作品は後日美術館で展示しました。



場所 |

八戸市美術館ジャイアントルーム

チームメンバー |

安田 真理子、得丸 文野、石塚 里佳、
濱田 真弓、石山 香織、柴田 由美子、
三浦 一範、篠原 英里、田村 由衣

先生の声

安田 真理子（元中学校校長）

同一テーマで制作したことで、児童・生徒の発達段階を見ることができました。小学校低学年では、自分の気持ちや好きなもの、家族との思い出を具体的に再現する傾向が見られました。年齢が上がるにつれ、自分の内面を見つめたり、将来を考えたり、理想とする自分と対峙して作品に表現する様子が見られるなど、様々な考えや多様な表現をしている児童・生徒たちを興味深く観察できました。

5 美術館新聞部プロジェクト

実施日

2021年11月3日(水・祝)～活動中



参加校 |

青森県立八戸工業高等学校美術部

八戸市立江南小学校、八戸市立大久喜小学校、八戸市立根城中学校 延べ42名

内容 |

児童・生徒がつくるオリジナル新聞

八戸工業高校の美術部員を中心に、2021年から活動を始めました。高校生と小中学生が協力して美術館新聞部として活動し、新聞『とれたて! すまあ〜と』を年1回発行しています。取材先の検討から紙面づくりまで、毎年部員たちが相談しながら進めています。



取材

高校生部員は、展覧会や近隣の飲食店・画材屋を取材し、アーティストや店主にインタビューを行います。初年度には地元の新聞社で、新聞づくりを教わりました。また、冬休みには小中学生部員と一緒にインタビューを行い、取材内容を文章にしています。



紙面づくり

どこにどのくらいの記事を載せるかを考え、紙面づくりを進めます。文章の他にイラストカットもつくります。小中学生部員は4コママンガや新聞部公式キャラクター「すまうまくん」のイラストを描きます。紙面が完成したら美術館で印刷し、市内学校に配布します。



場所 |

八戸市美術館ジャイアントルーム、ワークショップルーム、スタジオ

チームメンバー |

宮本 紘子、千葉 美樹子、三浦 真弓、篠原 英里、田村 由衣

先生の声

宮本 紘子 (高校教諭)

新聞名『すまあ〜と』の語源は「SMILE ART」。美術館という特別な空間で、年齢や学校の垣根を越えた交流が生まれ、それぞれの異なる視点や感性を生かしながら、創造的な新聞づくりに取り組んできました。小中学生は新たな発見や表現の楽しさを学び、高校生はリーダーシップやサポートする力を養う貴重な経験を得ています。これからも、美術や地域を通じて学びを深め、その魅力を広く発信していきたいです。



未来の土台となる美術館

かんちょう
 ～館長さんのお話～

八戸に新たな光が生まれました。人とまちを育む、新しい時代の美術館。今回は、そんな美術館を支えているひとりである館長・佐藤慎也（さとうしんや）さんにお話をうかがいました。



オープンの日、あいさつをする館長さん

館長さんは美術館の館長をしているだけでなく、建築士としても活躍されています。壁が白い美術館が多い理由は、作った作品だけでなく、そのまわりもひとつの作品として見せるためであるなど、建築に関する豆知識も教えていただきました。元々、美術館を建てる計画に関わっていましたが、まさか自分が館長になるとは思っていなかったように、自分でも驚いているそうです。

館長さんの願い

「八戸市の人たちは色々なことに対して興味をもつ人が多いです。そのような人たちが気軽に美術館に来て、いろんな人とお話ししたり、作品を作ったりする、本来の美術館とは違う美術館であってほしい。」というのが館長さんの一番の願いです。美術が好きな人でも、そうでない人でも美術館に来て、まちの延長のように自由に楽しく使える、美術館がまちそのもののようです。また、新しいものを生み出すことができる場所として、様々な見方やとらえ方を大切にしたいと考えており、アーティストだけではなく、八戸市の人たちや、他の土地から来た一般の人たちも活躍できるようなプロジェクトを考えているそうです。そして何よりも、どんな人でも一度は美術館に来てもらい、それから何度もこの美術館を使ってほしいそうです。

館長さんがおっしゃっていたように、八戸市美術館は他では経験することができない、たくさんの魅力を持った美術館です。まだ行ったことがない方はぜひ行ってみましょう！

八戸市美術館コレクション展
 「持続するモノガタリー 語る・繋がる・育む」
 2022年3月19日(土)～6月6日(月)



館長さんに取材中です

見るだけじゃないよ！美術館



八戸市美術館は、建物が古くなったことなどが原因で、長い間お休みしていました。しかし、令和3年11月3日、「100年後の八戸を創造する美術館」を目標に、新しい建物とともに再びオープンしました。新しい八戸市美術館には、珍しい部屋がたくさんあります。そのひとつが、入口を入ってすぐの『ジャイアントルーム』です。



ジャイアントルーム

大きな朝は動かすことができ、部屋の配置を自由に変えることで、さまざまな美術のイベントを行うことができます。そしてなんと、ジャイアントルームは誰でも無料で入ることができ、友達と語り合ったり勉強をしたり、インターネットで調べものしたり（Free Wi-Fiあり）、美術やこれからの八戸について考えることができるという場所になっています。八戸市美術館は、見て楽しむだけでなく、市民が活動をして楽しむ美術館といえます。

加藤さんが美術館のロゴに込めた思い



デザイナーの加藤賢策さん

今回は、八戸市美術館のロゴマークを制作した加藤賢策（かとうけんさく）さんにオンラインでインタビューをしました。まず、みなさんはこのロゴを見て、何を思い浮かべるでしょうか？シンプルなデザインで、上のほうが空白になっていますね。実はこの空白に意味があるのです。まずこの黒いお皿のようなものは『土台』をイメージしてデザインしたそうです。

それではこれが土台なら、上には何を置くのでしょうか？加藤さんは「八戸市美術館の大きな特徴であるジャイアントルームのように、キャパシティ(容量)の大きさを表し、八戸市の未来の土台になる」とおっしゃっていました。

ロゴの制作期間は約3か月だそうです。見せてもらったロゴの案は数えきれないほどありましたが、最終的にはこのデザイン「だけ」を美術館に提案したとおっしゃっていました。加藤さん自身もこのロゴが気に入ったお気に入りのデザインだそうです。

最後に、この美術館がこれからどうなっていくのかが聞きました。加藤さんは、「気が引きしまりつつ、でも気軽に訪れることができる場所になってほしい。そして未来を見据えてくれるワクワクするような存在になってほしい。」と語ってくださいました。ロゴを考えた加藤さんの思いを知ると、よりいっそう美術館のことが好きになるのではないのでしょうか。



はじめまして、「すまうまくん」です！

名前：すまうまくん

《性格》
いつもスマイル
元気いっぱい！

漢字で書くと
「笑顔馬君」

《特徴》
しっぽが絵筆

モデルは八戸の
「八幡馬」

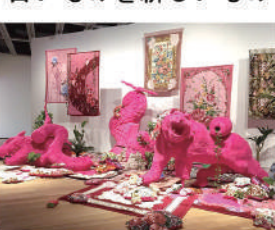
～美術館新聞部 公式キャラクター作成～

「親しみのある新聞になるようキャラクターを作ろう！」ということで、新聞部のメンバーみんなでキャラクターを作りました。すまうまくんは、美術と、八戸と、新聞を読んでもみんなのことが大好きです。これからよろしくね！



（おまけ）
こんなアイデアもあったよ！

古いものを新しいものへ ～江頭 誠 さんのお話～



江頭さんの作品「おやすみのあと」

八戸市美術館開館記念『ギフト、ギフト。』の展示の一つに、江頭誠（えがしらまこと）さんの作品「おやすみのあと」があります。今回、江頭さんに作品についてお話をうかがうことができました。

江頭さんの制作する立体作品は、いろいろなものをピンクの花柄の毛布でくるんでいるのが特徴です。今回の作品は八戸にちなんで、三社大祭の山車に使われた彫刻を毛布でくるんでいます。

江頭さんが花柄毛布を作品に取り入れるようになったきっかけは、家で使っていた花柄の毛布を、友人に「ダサイ」と言われたことだそうです。ここから江頭さんの花柄の毛布を使った作品がたくさん生み出されてきました。今回、この作品に使用された花柄の毛布は、八戸市民の方々からいただいたものを使用したそうです。江頭さんは、誰かのいらなくなったものに魅力を感じるそうで、毛布から花を切り取り、綿を詰めてクッションにすることで「新しいものに再生させる」といった意味が込められているそうです。

また、置かれている彫刻の鑑がばらばらになっていたり、作品をよく見ると雲のパーツが岩に見立てられていたりしています。これは、龍や雲といった本来の形として見るのではなく「何かの物体」として、ものを置くということを江頭さんは考えているそうです。

実際に作品への思いを聞いてみると、ひとあじ違った不思議な気持ちで展示を見ることができました。



作品について熱く語る江頭さん（奥）

令和3年度「とれたて！すまあ〜と」第1号 美術館新聞部 メンバー紹介と一言

- 江南小学校**
 宮内 夏帆(6年)：自分の考えたキャラクターが採用されて、とてもうれしかったです。
- 長沢 莉子(6年)：初めての体験だったけれど、高校生のお兄さんお姉さんがやさしくしてくれて、楽しかったです。
- 松本 夢叶(6年)：私は今回初めて取材をして、大変さや楽しさを知りました。小学校生活の最後にとってもよい経験ができました。
- 八戸工業高校 美術部**
 相馬 香花(3年)：たくさんの人に協力していただいて、素敵な新聞ができました。ありがとうございました。
- 長谷川 和葵(3年)：最初はとても不安だったけど、みんなと新聞を作ることができて楽しかったです。
- 越田 望永(2年)：魅力がまった新聞になりました。ぜひたくさん読んで美術館マスターになってください！
- 久保 ありす(1年)：私は今回初めて取材をして、大変さや楽しさを知りました。小学校生活の最後にとってもよい経験ができました。
- 館花 アンドラ(1年)**：たくさんの人がこの新聞を読んで、美術館に来ていただければと思います。

新聞『とれたて！すまあ〜と』 名前の由来

【とれたて！】…アートファーム（美術の畑）といわれる八戸市美術館で収穫された情報を、この新聞で伝えました。

【すまあ〜と】…SMILE ART（笑顔と美術）の略で、読者が笑顔になる新聞を目指します。また、忙しい現代人のために、美術館や八戸の魅力をスマートに伝えていきたいです。



新聞部メンバーみんなてなげました

デコトラ ぽうまん





参加校 |

八戸市立豊崎小学校、三沢市立三沢小学校、八戸市立東中学校、
青森県立八戸北高等学校 計 13 名

内容 |

お茶会で出たアイデア

お茶会を開き、メンバーで世間話や近況報告をしつつ、今後の活動について話し合いました。前日に展覧会「まるごと馬場のぼる展」(2022年7月2日～8月29日)の鑑賞授業を行った豊崎小学校の濱田先生の話をきっかけに、小中高生が一緒に展覧会を鑑賞することになりました。



カルタ遊びで緊張をほぐす

参加者が仲良くなるための時間を作るとよいという前年のプロジェクトの経験を基に、自己紹介の後には小中高生混合の2チームに分かれ、チーム対抗で「11ぴきのねこ」のカルタを行いました。カルタは白熱し、参加者の緊張もほぐれました。



チームに分かれて鑑賞

学芸員が展覧会を案内した後、それぞれがお気に入りの作品を探しました。その後、再びグループになり、選んだ作品と気に入った理由を発表し、それに対して他の参加者が質問をしました。鑑賞会では、高校生が小中学生をサポートする様子が見られました。



場所 |

八戸市美術館ジャイアントルーム、
ホワイトキューブ

チームメンバー |

濱田 真弓、柴田 由美子、得丸 文野、
三浦 真弓、篠原 英里、田村 由衣

先生の声

濱田 真弓 (元小学校教諭)

初めて会う人との交流は、児童にとって大人が考える以上に大きな挑戦。それでも、心を傾けてつくられた作品の前では、1年生だって自分の言葉を持つ。つたない言葉を拾い、助けてくれる中高生がいる。自分の言葉で語ることが自信になる。その光景に胸が熱くなった。「先生、楽しかったよ。」本当に？ うん、その言葉を信じよう。子どもたちの心に芸術の種を蒔いたという自負とともに。



参加者 |

第1回 | 10名、第2回 | 11名 計21名

内容 |

先生ならではの視点で鑑賞をナビゲート

展覧会「展示室の冒険」(2024年4月20日～6月24日)の学校連携企画として、「みんなでじっくり鑑賞ナビ」を2回実施しました。学校連携プロジェクトチームに所属する先生2名が協力して、学校現場の経験を生かした鑑賞のナビゲートを行いました。



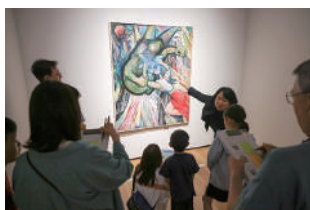
第1回 ポーズを取り、作品をじっくり対話鑑賞

八戸市立東中学校の柴田先生のナビで明山應義《母子G》を鑑賞しました。中学校の生徒に加え、一般の来館者も参加。参加者は描かれた人物のポーズをとり、セリフを考えました。その後、対話鑑賞では作品に込められているメッセージにまで話が及びました。



第2回 ワークシートを使って

青森県立八戸東高等学校の清野先生がワークシートを活用したナビを行いました。ワークシートの3つの質問の答えを付箋に書いて共有してもらい、その内容を紹介しながら鑑賞を進めました。質問の段階を踏むことで、スムーズな対話に繋がりました。



場所 |

八戸市美術館ホワイトキューブ

実施メンバー |

柴田 由美子、清野 恵、篠原 英里

先生の声

柴田 由美子 (中学校教諭)

絵画の中の人物と同じポーズをとってみると？ 新聞に描かれた文字は？ 絵に近づく中学生の素直な感想と、大人の発見が化学反応を起こし、教室では感じることでできない深い鑑賞となりました。

清野 恵 (高等学校非常勤講師)

展示室の空間で、生の作品に対峙する対話鑑賞には、わくわく感がありました。幅広い世代の参加者が、互いの感性を言語化することで、展示作品の見方、考え方が深まる様子を体感しました。

1 合唱録音プロジェクト

実施日

2023年1月21日(土)～3月10日(金)



参加校 |

八戸市立吹上小学校合唱愛好会、八戸市立柏崎小学校合唱愛好会、八戸市立根城小学校合唱部、
八戸市立白銀南中学校合唱部、青森県立八戸東高等学校音楽部 計 80 名

アーティスト |

井川 丹

1984年生まれ。東京藝術大学音楽部作曲科卒業。「人の声」を創作の中心に据え、演奏会用作品やサウンドインスタレーションの制作をはじめ、美術家、建築家、ダンサーとの共同制作、アートプロジェクトへの参加、市民参加型ワークショップ、こども創作教室のファシリテーションなども行っています。



場所 |

八戸市美術館ホワイトキューブ、
八戸市公民館ホール、
八戸ポータルミュージアムはっち、
南郷文化ホール

担当 | 大澤 苑美

内容 |

展覧会の作品制作

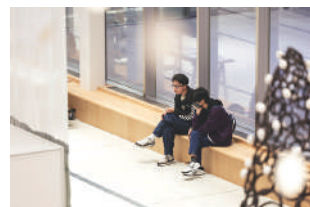
展覧会「美しい HUG！」(2023年4月29日～8月28日)の展示作品として、参加アーティストの井川丹さんが、教育版画《虹の上をとぶ船 総集編Ⅰ・Ⅱ》をテーマに9時間の音楽インスタレーションを制作。その中で登場する8曲の合唱曲を、市内小中・高校の児童・生徒と録音するプロジェクトを行いました。井川さんが作曲、大西健太郎さんが作詞をしました。

児童・生徒との合唱録音

教育版画が当時の養護学級の中学生によって制作されたものであることから、井川さんは、合唱曲もこどもたちの声で録音したいと考え、市内の5校の小中高校の合唱部、合唱愛好会、音楽部に依頼し、合唱を録音しました。途中で井川さん、大西さんがメッセージ動画をつくって送ったり、訪問やオンラインで練習に参加してアドバイスを行いました。

作品展示

合唱曲8曲は、開館中の毎正時に流れ、録音に参加した児童・生徒たちが聴きに来る様子も見られました。その後、作曲した合唱曲を、声楽アンサンブルコンクールで歌う学校もありました。



2 《タノニマス》 小学校出張ワークショップ

実施日

2023年6月19日(月)、20日(火)、22日(木)



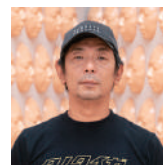
実施校 |

八戸市立金浜小学校、八戸市立三条小学校、八戸市立多賀小学校 計98名

アーティスト |

タノタイガ

東京都生まれ、仙台育ち、東京都在住。立体造形、映像、パフォーマンスなどの多様な表現手法で社会制度やルール、法律などの記号性と媒体性を誇張した風刺的表現を行っています。ときには作家自身を媒体化することで日常に埋もれた社会や集団の倫理性を表出させ、作品にはユーモアと毒を兼ね備えます。



場所 |

各校

担当 |

田村 由衣

内容 |

お面制作のワークショップ

展覧会「美しいHUG!」に関連し、市内小学校への出張ワークショップを行いました。作品名の《タノニマス》は、作家の「タノタイガ」と、匿名を意味する「アノニマス」を組み合わせた造語です。ワークショップでは、作家の顔をかたどったお面に児童がペンや毛糸、布などの様々な材料を使って装飾します。完成した個性豊かなお面は展覧会会場に展示され、作品の一部になります。

みんな同じ顔だったらどう思う？

授業の初めにタノタイガさんによる自己紹介と作品解説を行いました。会期初日のお面がずらりと並んだ写真を見て、「こわい!」「気持ち悪い!」という声が聞こえてきます。タノタイガさんの「世の中みんな同じ顔だったら?」という質問に対して、みんな一斉に「いやだー!」と答えました。

自分だけの「顔」に

制作の前に下絵を描きました。どんな素材があるか、何を使うか、素材を手に取りながら想像を膨らませます。技術的にわからないことはタノタイガさんや先生に質問しながら、自分だけの「顔」を制作しました。完成後は近くの人同士で見せ合い、最後に記念撮影を行いました。制作したお面は展覧会会場に展示され、学校で見学にきたり、家族で美術館を訪れたりしていました。



3 PUTI PUTI LAND

実施日

2023年7月29日(土)～30日(日)



アーティスト |

PUTIMAKER

武蔵野美術大学の学生、河田亜美、山本華凜、野嶋慶乃、猪狩日菜によるアーティストグループ。学園祭や地域のイベントでワークショップを開催しています。(2023年時点)



参加者 |

ボランティア延べ50名

(八戸市立第一中学校、八戸市立三条中学校)

参加者150名

場所 | 八戸市美術館ジャイアントルーム

担当 | 田村 由衣

内容 |

「プチプチ」を使ったワークショップ

「PUTI PUTI LAND」は、プチプチ(気泡性緩衝材)でつくられた立体遊具で遊んだり、プチプチを使って自由工作ができるワークショップです。身近にあるプチプチの新しい可能性を広める企画です。

※「プチプチ」は川上産業株式会社の商標登録です。



中学生ボランティアと準備

事前準備には、学校連携プロジェクトチーム所属の先生の呼びかけで集まった中学生がボランティアで参加しました。自己紹介の後、グループに分かれて作業を行います。ワークショップや展示で使うパーツは、プチプチを切って丸めて、グルーガンで留めます。天井から吊るすパーツには、テグスを通しました。最後は、トンネル遊具に使うためのプチプチにみんなで絵を描きました。



子どもがたくさん参加

ワークショップスペースにプチプチでできたマットを敷いて、ジャイアントルームの天井からプチプチの雲と雪を吊りました。子どもたちはプチプチでできた道の上を歩いたり、プチプチパーツの山に埋もれたり、工作をしたり、思い思いに楽しんでいました。ワークショップ当日は、ボランティアに参加した中学生も遊びにきました。



4 コピトラとつくる\ココハドコダ!?!/ パラレルシティ

実施日
2024年8月7日(水)~11日(日)



アーティスト |

THE COPY TRAVELERS

版画をルーツとする、加納俊輔、迫鉄平、上田良の3名からなるアーティスト・ユニット。写真や印刷物など、それぞれが集めたイメージを、コピー機やスキャナ、カメラといったツールを用いて組み合わせるなど、多様な試みによって「複製」や「コラージュ」という手法の可能性を探っています。



参加者 | 小学生5名

場所 |

八戸市美術館スタジオ、
ジャイアントルーム

担当 | 田村 由衣

内容 |

教育版画の原点に立ち返って

展覧会「風のなかを飛ぶ種子 青森の教育版画」(2024年10月12日~2025年1月13日)に関連し、公募で集まった小学生とTHE COPY TRAVELERSによる作品制作プロジェクトを実施。「生活を見つめて表現する」という教育版画の原点に立ち返り、自分たちが暮らす八戸の街を眺めたり、八戸のお店で素材を集めたり、美術館外で活動することから始めました。

《5人のコピササイズ鳥瞰図》

コピー機に載せた素材を動かしながらコピーしたり、2色印刷を使ったり、コピー機の特性を生かしながらコピーを繰り返し行うことで、さまざまな作品が完成しました。コピー機に向かって黙々と制作する児童たちの真剣な眼差しと姿、アーティストの手法を吸収し、自らの表現を広げて行く姿が見られました。

《なんでも!準備中?5つのドリームコピパラシティ》

分割した土台に、1人ひとりが集めた素材や新たな八戸の街を思い描いてつくったパーツを配置していきました。最後にそれぞれの街を合体させ、道路をつくり、橋を架け、1つの街が完成しました。そして、この立体的な地図を上から撮影して原寸大で出力し、平面作品をつくりました。これらの作品は展覧会で展示されました。



1 出張授業・公開授業 「思い出を美術館に…」

実施日

出張授業 | 2022年11月11日(金)、17日(木)、24日(木)

公開授業 | 2022年11月30日(水)



実施校 |

八戸市立旭ヶ丘小学校 50名

場所 | 八戸市立旭ヶ丘小学校、
八戸市美術館 ジャイアントルーム

担当 | 田村 由衣

内容 |

美術館に作品を展示

「令和4年度 第1回総合教育会議」の公開授業として、旭ヶ丘小学校6年生の作品を美術館に展示しました。公開授業を行う前に、作品制作や展示の助言をする講師として、学芸員が計3回の出張授業を行いました。1回目、2回目の授業では、作品を美術館に展示することは児童に知らせておらず、校内に展示した後にに行った3回目の授業で、美術館での展示を発表しました。



制作過程

1回目の授業は、小学校生活を振り返って心に残った出来事をワークシートに記入し、学芸員が表現方法や使用する素材などのアドバイスをしました。2回目は児童と一緒に、アイデアが生きる展示方法を考えました。3回目は作品を美術館内に飾るため、館内を紹介する映像を作成し、展示可能な場所や使用可能な備品について説明しました。



展示・鑑賞

学芸員が作品を展示する上での注意点を話した後、児童は各自展示作業を行いました。窓ガラスやジャイアントルームの天井、ソファ、階段、2階の手すりなど様々な場所に展示しました。展示後は3つのグループに分かれて作品を鑑賞した後、タブレットで作品を撮影し、作品紹介のコメントを入力しました。作品は、授業後に約1週間展示しました。



2 出張授業 「風のなかを飛ぶ種子 青森の教育版画」

実施日
2024年12月3日(火)、9日(月)、
11日(水)、18日(水)



実施校 |

八戸市立鮫小学校、八戸市立田面木小学校、八戸市立江陽中学校、青森県立八戸東高等学校
計268名

場所 | 各校

担当 | 田村 由衣、
類家 舜

内容 |

教育版画に触れるきっかけづくり

展覧会「風のなかを飛ぶ種子 青森の教育版画」にあわせ、教育版画に触れる機会や美術館へ足を運びきっかけづくりとして、希望する学校への出張授業を実施しました。授業では、小中高生別に作成したワークシートや原寸大に印刷した作品、拡大印刷した作品を使用しました。



対話鑑賞

まずは作品をじっくりと見て、感想や疑問に思ったことをワークシートに書き込み、挙手による発表を行いました。理科の授業で学んだ星座から季節を考察したり、登場する人間や生き物の様子から物語を想像したり、学校や学年、学級によって様々な感想が生まれました。また、1人の疑問や感想を受けて、みんなで考える場面も見られました。



作品解説

解説する作品は、漁に出た家族の帰りを待つ女性を描いた作品や役目を終えた木造船を描いた作品など、昔の八戸の海の生活を描いたものを選定しました。当時の過酷で危険な海の生活や時代背景のほか、エッチングやドライポイントなどの技法についても解説しました。また、小学生にはクイズ形式で解説を行いました。



3 図画工作科教育研究会 研究授業

実施日

2022年10月5日(水)、

2024年11月13日(水)



参加者 |

2022年 | 八戸市立八戸小学校2年生24名、小学校教員114名

2024年 | 八戸市立多賀台小学校5年生24名、小学校教員80名

場所 | 八戸市美術館ホワイトキューブ、
ジャイアントルーム、スタジオ

担当 | 篠原 英里、大澤 苑美、高橋 麻衣

内容 |

概要

八戸市小学校図画工作科教育研究会と連携し、研究授業を行いました。当日までに教員と学芸員が授業内容を話し合い、学校で授業を試行するなどして準備を進めました。授業の様子を大勢の教員が見学しました。研究授業後には館内で研究協議会を開き、授業内容や美術館との連携について意見交換を行いました。

2022年の授業

2022年には、美術館の収蔵作品から教育版画作品2点を特別に館内のジャイアントルームに設置して鑑賞しました。八戸小学校の山道恵里香先生が授業を行い、鑑賞のキーワードを書いたマグネットシートを活用して、2点の作品を比較しながら鑑賞しました。



2024年の授業

2024年には、展覧会「風のなかを飛ぶ種子 青森の教育版画」で展示中の作品を鑑賞しました。多賀台小学校の久保田遥先生と学芸員がファシリテーターとなって対話鑑賞を行い、グループごとに鑑賞の内容をまとめて発表してもらいました。事前授業では作品を大判プリントしたものを鑑賞し、学芸員もオンラインで授業に参加しました。



4 朝鑑賞のための 対話鑑賞研修

実施日

2024年1月29日(月)、3月12日(火)、
7月3日(水)、11月13日(水)



参加者 |

1月29日 | 八戸市美術館 40名

3月12日 | 八戸市立島守中学校 10名

7月3日 | 八戸市立多賀小学校 12名

11月13日 | 八戸市立鯉中学校 12名

計74名

場所 | 八戸市美術館スタジオ、
コレクションラボ、各校

担当 | 安田 真理子、篠原 英里、田村 由衣、類家 舜

内容 |

対話鑑賞・朝鑑賞の推進

対話鑑賞は感じたことや考えたことを言葉にしながら作品の見方を広げ深める鑑賞方法で、対話力や共感力、自己肯定感が上がるといわれています。八戸市美術館では学校の美術館見学などの機会に対話鑑賞を取り入れています。朝鑑賞は授業開始前の朝自習の時間を対話鑑賞に充てる取り組みで、八戸市美術館では朝鑑賞を推進するため、教員を対象に朝鑑賞のための対話鑑賞の研修を実施しています。

朝鑑賞に学ぶファシリテーター研修

初めに講師の三澤一実教授から、朝鑑賞の実践により「児童・生徒の思考力・表現力の伸長」と「教師のファシリテーション力の向上」という成果が見られている、という他県の事例紹介がありました。朝鑑賞の流れやファシリテーション技術について実演の後、収蔵品展示室のコレクションラボで対話鑑賞のグループワークを行いました。

校内研修

朝鑑賞の校内研修を希望する学校へ出向き、ファシリテーターのレクチャーを行いました。朝鑑賞や対話鑑賞の経験者がいない学校もあったため、基本的な内容から実践まで行いました。学芸員や学校連携コーディネーターによる概要説明や対話の前の作品鑑賞ワーク、ファシリテーターの実演を行った後、教員にファシリテーターを体験してもらいました。



5 見学・職場体験



概要 |

学校団体の見学では、学芸員や学校連携コーディネーターによる展覧会解説や対話鑑賞、ワークショップなどを行っています。職場体験では、美術館の事務作業や総合案内業務などが体験できます。

場所 |

八戸市美術館

内容 |

見学

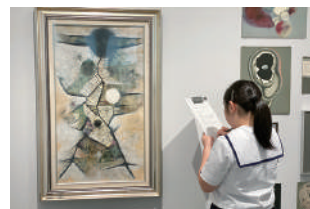
小学校・中学校・高等学校の見学実績

2021年度 | 25件

2022年度 | 43件

2023年度 | 33件1,219名（小学校25件916名、中学校4件204名、その他4件99名）

2024年度 | 41件1,135名（小学校17件549名、中学校9件235名、高等学校4件158名、その他11件193名）



職場体験

実績

2022年度 | 中学校1件2名

2023年度 | 中学校3件6名

2024年度 | 中学校7件10名



6 図工・美術・文化展



概要 |

八戸市美術館は小学校・中学校・高等学校の図工・美術・文化展の会場として活用されています。

場所 |

八戸市美術館ホワイトキューブ、
ギャラリー1・2、スタジオ、
ジャイアントルーム

内容 |

小学校

2022年12月28日(水)～2023年1月9日(月) | 第55回八戸市小学校図画工作展
2023年12月27日(水)～28日(木) | 第56回八戸市小学校図画工作展
2025年2月1日(土)～2日(日) | 第57回八戸市小学校図画工作展

中学校

2023年1月27日(金)～29日(日) | 第59回八戸市中学校生徒美術展
2023年11月10日(金)～12日(日) | 第20回青森県中学校総合文化祭〈八戸市・三戸郡大会〉
2024年2月29日(木)～3月3日(日) | 第60回八戸市中学校生徒美術展
2025年1月11日(土)～12日(日) | 第38回青森県中学校選抜美術展
2025年2月28日(金)～3月2日(日) | 第61回八戸市中学校生徒美術展

高等学校

2023年1月20日(金)～22日(日) | 第37回八戸工業大学第二高等学校美術コース作品展
2023年10月6日(金)～8日(日) | 第44回青森県高等学校総合文化祭〈三八・上北大会〉美術部門
2023年10月13日(金)～15日(日) | 第44回青森県高等学校総合文化祭〈三八・上北大会〉書道部門
2025年1月31日(金)～2月2日(日) | 第39回八戸工業大学第二高等学校美術コース作品展



おわりに

この5年間の学校連携事業をふりかえると、たくさんの人たちと縁を結んできた事業だったと思います。活動があって結ばれた縁もあれば、縁があったからこそ生まれた活動もありました。いずれにせよ、ものごとを動かしていくのは人の力だということを強く実感した5年間でした。

八戸市美術館の学校連携事業において、大きな転機となったのが新美術館の整備と再開館です。新たな美術館では、人が活動するための開放的な空間「ジャイアントルーム」が設けられました。このジャイアントルームを筆頭に、美術館が「場」として開いたことによって、様々な活動ができるようになりました。展示を見るだけでなく、一緒に相談したり、つくったり、広げたりできるようになりました。また、建築だけではなく運営も見直し、「種を蒔き、人を育み、100年後の八戸を創造する美術館～出会いと学びのアートファーム～」を新たなビジョンに掲げたことで、より一層「学び」に力を入れるようになりました。そこで大切にしたのが、一緒につくっていく、一緒に取り組んでいくという意識であり、この冊子で紹介したどの事業にも共通している考え方です。

本冊子は、「学校連携プロジェクトチーム」、「アーティストと子どもをつなぐ」、「学校と美術館」の3部構成です。中でも学校連携プロジェクトチームの活動は、全ての事業の基礎になりました。美術館が学校と連携する上で何より重要だったのが、学校の先生と美術館のスタッフが知り合いになって打ち解ける……縁を結ぶことだったからです。軽い気持ちで相談や雑談をできる学校の〇〇先生や美術館の〇〇さんがいることで、連携が大幅に前進しました。児童・生徒によい学びや経験を提供したいという同じ目標を持つ者同士、協力していける関係性づくりの大切さを感じました。また、「アーティストと子どもをつなぐ」の事業のように、美術館ならではの企画を活かして、アーティストと子どもをつなぎました。ちょっと変わった大人との遭遇、そして密な交流は、子どもたちにとって刺激的な経験になったことでしょう。さらに、「学校と美術館」で紹介しているように、児童・生徒や教員、学芸員らが学校と美術館を往来する事業も展開しました。いつもの自分の場所とは異なる場へ出向くことは、別の社会を知り、視野を広げることにつながります。それは児童・生徒や教員だけではなく美術館スタッフも同様で、学校に出向いてはじめて気付くことができました。

この5年間の期間は、100年後を見据えたビジョンの中では短いようでいて、あっという間に過ぎる子どもの成長期間の中では長いものです。そして、この事業の成果が見え始めるのは、おそらく10年後か20年後、もしかするともっと後のことかもしれません。したがって、まだまだ手探りの部分はありますが、子どもの成長、また、100年後の八戸を胸に、今後も縁を絶やさずに活動を続けていきます。

八戸市美術館 学芸員 篠原 英里

学校の先生方へ

遠足や社会科見学、部活動等での団体見学の流れは下記のとおりです。子どもたちの学びのためにやってみたいことやご要望・ご質問があれば、美術館へご連絡ください。ご相談しながら進めますので、内容がはっきり決まっていない状態でも構いません。

また、幼稚園・保育園・大学・高等専門学校・児童館・放課後等デイサービスの見学も受け付けています。

団体見学—申し込みから来館まで—

1. 申し込み

見学希望日の2週間前までに「団体見学申込書」を提出
(E-mail・FAX・郵送など)

申込書は、八戸市美術館のホームページや美術館受付で入手いただけます。

2. 打ち合わせ

美術館の担当者からご連絡し、事前に見学内容を確認します
(電話・E-mail・対面など)

3. 来館



2020—2025

八戸市美術館 学校連携事業活動報告

編集	田村 由衣、篠原 英里、類家 舜
執筆	田村 由衣、篠原 英里、大澤 苑美
写真	神 智、田村 由衣、高橋 麻衣
写真提供	八戸市立多賀台小学校 (P16 3枚目)
デザイン	三上 真嗣、川口 真莉恵 (東北のデザイン社)
発行	八戸市美術館 〒031-0031 青森県八戸市大字番町10-4 TEL 0178-45-8338 FAX 0178-24-4531 Mail art@city.hachinohe.aomori.jp HP https://hachinohe-art-museum.jp

無断転載複写禁止



八戸市美術館
Hachinohe Art Museum